



みず・まち・自然 エンジョイ！米子

広
報

よなご

11

2022
November
No.212



特集

広がる！ 農業のミライ

～米子のネギとコメ～

特 集

広がる！ 農業のミライ ～米子のネギとコメ～

高 齢化による離農や担い手不足、海外からの安価な農産物の輸入など、日本の農業はさまざまな課題に直面しています。しかし一方で、農作物は私たちの生活に欠かせないものであり、地産地消の推進や消費者の健康志向の高まりから、国産の農作物の需要は拡大しています。

米 子市の農業は、おおまかに、弓浜半島に代表される畑作地帯と南部・淀江地区などの稲作地帯とに分かれ、農家の皆さんが努力を続けながら農作物を生産しています。そして、さまざまな課題がある中で、考え、工夫し、時にはお互いに協力し合いながら、新しい時代に合わせた農業を探求しています。

今 回は、広がり続ける「農業のミライ」にスポットを当て、米子市で特に生産量の多いネギとコメの農家の中から、新しい農業に取り組む生産者の皆さんを紹介します。

Rice

>>The Future of Agriculture in Yonago



Case 1 割に合わないことを見直し、労働生産性を高める



いわお
巖生産組合(蚊屋)

代表取締役 大森 洋介さん(写真中央)



広い農地を少人数で作業している

巖生産組合は、主に箕蚊屋の巖地区で米を中心に、大豆や白ネギを生産しており、農地の面積を増やし、大型の機械や農地管理のアプリを導入するなど労働生産性を高める取り組みを進めています。代表取締役の大森洋介さんは「農家は朝から晩まで毎日働き、休みがなく給料が割に合わないというイメージがあるかもしれないが、自分たちの農業はその真逆です」と、ここ10年でやっと実ったという成果について語ります。

「自分が農業を始めたころは給料が少なく、バイトをかけた持ちするなど大変だった」と振り返る大森さん。生産性を高めるため、割に合わない作業や品目を減らし、面積を増やしてきました。今では5人の従業員を雇い、高水準の給与や勤務の定時化などを実現し、人手を確保しています。周辺の離農する人たちから託される農地も年々増え、機械化を進める中で、同じ地域で農業を営む柳谷ファームの存在は大きいと言います。「柳谷さんが大型の機械を先に導入してくれるので、自分たちも取り入れやすい。昔ながらの農業とは変わってきていることを、地域の人たちにも知ってほしいです」

Case 2 地球にやさしい循環型の農業を地域で育む

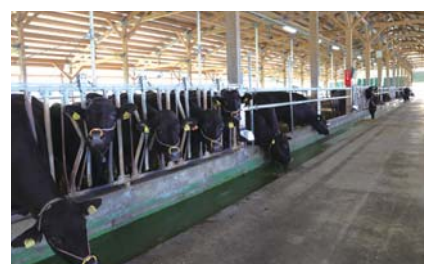
柳谷ファームは、箕蚊屋の春日地区で、主に米の生産と和牛の畜産をしています。米の生産は広い面積を効率的に作業するため、農地を整備し大型の機械を取り入れていきます。また、「農業の基本は土づくり」という理念のもと、育てている牛のふんなどで作った堆肥を田んぼの肥料にし、米を作り、収穫後のわらを集めて牛の飼料にするなど循環型農業を進めています。農業の魅力について、取締役社長の柳谷雄大さんは「正解がない中、毎回工夫を続け、自分の理想に近づけたときにやりがいを感じる」と言います。



柳谷ファーム(下新印)

取締役社長 柳谷 雄大さん(写真左)

そして、従業員にも「どんどん新しいことに挑戦してほしい」と促します。同じ箕蚊屋で農業を営む巖生産組合の大森さんとは、お互いできない作業を補い合ったり、自己満足で終わらせないため失敗したことも共有し合うと言い、「良いライバルであり、良い友」と称えます。また、新しい技術を使った農業に移行する中で、「農業は地域の人たちと持ちつ持たれつ。周りで昔から農業をしている先輩たちの言葉にも耳を傾けながら取り組みたい」と、温故知新の地域に根差した農業をめざしています。



和牛のふんを堆肥化して農業に使用する

Case 3

自分のペースに合わせた農業で家庭と両立



いわた農園 (河岡)

代表 ^{いわた えみ} 岩田 恵美さん (写真右)



家庭優先の無理のない規模で続けている

岩田さんは就農して今年で9年目。農業をする前は工場に勤めていましたが、農家だった祖父母の農作業を手伝った幼い日の楽しい思い出や、自然の中で働きたいという思いから転職し、現在は白ネギや米を生産しています。岩田さんは子育てと家事をしながら農業をしているため、作業は基本的に午前9時から午後4時まで、土日祝は休みです。4年前からは雇用を始め、同じく子育てをしている女性と一緒に仕事をしています。

まだ人数の少ない女性の就農は、苦労もある一方、十分な利点もあると岩田さん。「重い機械も使いますが、規模を調整しながら無理のない範囲で農業をしているので、家族第一のペースで続けられています」。また、その働き方について「体力に自信があつて外が好きな人なら、農業は自由で楽しい」と話します。収入に関しても、「同じ勤務時間他の仕事と同じぐらい稼いでいるので、仕事の選択肢の中に十分入る」とのこと。地域の人たちから託される農地の面積も増えつつある中で、「子育て中のお母さんの雇用を促進したい」と、笑みがこぼれます。

Case 4

機械化した分、人にしかできない作業を手厚く

みのりのファームでは、主に野津さんの家族3人で、米、豆、梨などを生産しています。限られた人数で広い面積の作業をするために、自動草刈り機や自動操舵のトラクターを導入。機械ができる作業は機械に任せる分、品質の向上や細やかな作業などの人にしかできないことに時間を割けるようになったと言います。

これまで、2畝の梨園の草刈りは、人が草刈り機を使って作業すると毎月延べ2日ほどかかっていたそう。これを、3台の自動草刈り機を導入することで省力化。仕上がりが良く、「ゴルフ場のフェアウェイ

「新しい機械を導入することで、新しい可能性も広がる。自由な発想で無駄を省き、知恵を絞り、がんばった分だけしっかり跳ね返ってくるのは楽しいです」



みのりのファーム (淀江町稲吉)

代表取締役社長 ^{のつ よしみ} 野津 好美さん (写真左)



今年には自動操舵のトラクターなどを導入した



オーミーティング

O-Meeting (大篠津)

会長 村田 彰さん (写真前列左から2人目)

新規就農者の白ネギ畑
で意見を出し合う

O-Meeting (オーミーティング) は、白ネギの栽培が盛んな弓浜地域で、新規就農者を支援しながら栽培技術の向上をめざす若手生産者を中心とした集まりです。結成されて今年で5年目になります。

集まりの主な活動は、新規就農者の白ネギ畑に集まり、その栽培についてメンバークが意見を出し合うというもの。結成当時に新規就農者だった大谷さんは、「弓浜地域は1年を通して白ネギを出荷できる数少ない産地ですが、周年栽培は生育に合わせた管理が難しく、先輩たちから教えて

もらえる場があるのはすごくありがたい」と話します。また、高みをめざす仲間たちと触れ合えることに「モチベーションを上げてもらえる」と、良さを語ります。

会長の村田さんは、「当時の新規就農者が、今ではアドバイザーとして新規就農者を教えている。こうして新しい人たちが育って、生産者が増え、全体のレベルが上がって、良い産地になる」と、集まりの意義について話します。仲間たちと切磋琢磨しながら、篤農家と言われる優れた生産者をめざして、歩みを進めています。

新規就農のための技術研修生の声

O-Meeting に参加する、新規就農の研修中のお二人に話を聞きました。

前職は車のディーラーで、16年間営業をしていましたが、家庭菜園が好きで妻といつかは農業をしたいと思っており、どうせやるなら若いうちに始めようと一念発起して転職しました。研修では親方がしっかりと指導してくださり、作業のやり方や、それを行う理由も教えてもらい、判断力を鍛えています。体力は必要ですが、精神的なストレスはありません。これからも農業を楽しみながら、地域に認められる農家をめざします。

きまぢ だいき
来海 大樹さん

前職は製造業で会社員として働いていました。昔から農業に興味はありましたが、もっと楽しい働き方はないかと考えていたとき、周りが立て続けに農業を始めたことで自分も転職しました。土づくりや畑づくりは時間がかかりますが、自然災害などの困難を乗り越え、良いネギが収穫できたときの喜びは想像以上でした。もっと早く始めればよかったと思うほどです。「儲かって楽しそう」と周りに思ってもらえるような農家になりたいです。

うえすぎ しゅうへい
上杉 秀平さん

Welcome!

新たに農業を
始めたい方を
応援します！

お気軽にご相談ください

「農業を始めたいが、どんな作物がいいだろうか?」、「機械を買ったり、お金がかかると思うと、不安で…」。

そんなときは、農林課にご相談ください! 就農までのステップや農業を始めるにあたってのアドバイスをします。関係機関と一丸となって支援しますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

圃農林課 (☎ 23-5223)

とろ~っと、甘い！米子特産の白ネギ

はくしゅうびじん

伯州美人

伯州美人は、古くから鳥取県西部地区で栽培されていた白ネギの在来種です。現在一般的に栽培されている品種に比べ、太くて柔らかく、甘みが強いのが特長です。一方で、葉が柔らかくて長く、風や雪に弱いため栽培が難しく、生産者はわずかにまで減少していました。

しかし近年、そのおいしさを消費者に味わってもらいたいという思いから、生産者が奮起し、少しずつ栽培が増えています。現在栽培されているのは在来種の「改良伯州5号」という鳥取県唯一のオリジナル品種で、伯州美人はそのブランド名です。

現在は主に関西へ出荷されていますが、地元でももっと知ってほしいと、今年は学校給食や地ビールフェスタで伯州美人を広める取り組みを実施します。



生産者の声

伯州美人の栽培は、台風や雪などの天候に左右されるため手間暇がかかります。ですが、火を通すと柔らかくて甘く、おいしいので、地元の皆さんにもぜひ味わってほしいと思います。



伯州美人生産者
きむら なおと
木村 直人さん

学校給食で味わう！

11月29日の「いい肉の日」に学校給食で提供される「とっとりギューっとすき焼き」に使用する白ネギに、一部の学校で伯州美人を使用します。

この献立は白ネギをたっぷりを使用し、火を通すと、とろっとして甘くなる伯州美人の特長を存分に生かした一品です。

収穫量が少ないため、残念ながら学校を限定して実施しますが、子どもたちに米子特産のおいしい白ネギを味わってもらえるよう取り組みます。

圃学校給食課 (☎ 33-4752)



地ビールフェスタで味わう！

11月25日の地ビールフェスタで、伯州美人を使った料理が味わえるブースが出店されます。

おいしい地ビールと共に、さまざまな料理で伯州美人を楽しめる機会です。ぜひお出かけいただき、伯州美人をご堪能ください！

地ビールフェスタ in 米子

▶とき 11月25日(金) 午後3時~9時

▶ところ ひまわり駐車場(角盤町)

くわしくは、「地ビールフェスタ in 米子」

ホームページでご確認ください。

